

令和4年度

原子力防災訓練実施状況

境 港 市

1 今年度の特徴

- (1) 新型コロナウイルス禍の中、規模を縮小して訓練を実施
- (2) 自家用車による住民避難訓練（避難先施設まで走行）を実施
- (3) 中国電力配備の福祉車両による避難行動要支援者の避難訓練を実施

2 実施日時

- | | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| (1) 原子力防災講座 | 10月27日(木) | 19:00~21:00 |
| | 28日(金) | 15:00~17:00 |
| (2) 災害対策本部等運営訓練 | 11月7日(月) | 8:30~12:00 |
| (3) 住民避難訓練等 | 11月12日(土) | 8:00~14:30 |

3 実施場所

境港市役所災害対策本部室、旧誠道小学校、光洋の里（さざなみ）
東伯総合公園駐車場、東伯総合公園体育館
鳥取市立中ノ郷小学校、中ノ郷地区公民館

4 主な訓練内容

- (1) 災害対策本部等運営訓練
- (2) 住民避難訓練
(安定ヨウ素剤服用訓練、福祉車両避難、避難行動要支援者避難
避難退域時検査含む)
- (3) 障がい者支援施（屋内退避）避難訓練

1 会議等

(1) 災害対策本部等運営訓練 (18名)

- ① 地震発生から原子力災害へと進展に応じた市災害対策本部会議等の実施
- ② 消防・警察・海保・自衛隊・国交省・中電及び国・2県6市等との情報共有
- ③ 災害対策本部室の電気・通信環境の確認

2 情報伝達訓練等

- ① 原子力防災ネットワークシステムによるテレビ会議、PC端末による災害時系列情報の共有・送受信



【中電による事象説明】



【市災害対策本部会議】



【原子力災害合同対策協議会】

1 住民避難訓練等概略図

- (1) 緊急速報（エリア）メール等、各種情報伝達手段による住民広報
- (2) 一時集結所における避難行動要支援者避難（模擬）を実施
- (3) バス、自家用車、中電福祉車両による避難訓練を実施
- (4) 障がい者支援施設避難（屋内退避）訓練



2 参加者数等

訓練内容		余子地区	誠道地区	中浜地区	その他	職員	合計
バス避難訓練 (安定ヨウ素剤配布 訓練含む)	避難行動 要支援者訓練	5人	2人	5人		6人	18人
	中電福祉車両 による避難		3人			1人	4人
	一般避難訓練	6人	5人	10人		12人	33人
自家用車避難訓練		3人		2人		2人	7人
障がい者支援施設避難訓練					21人	2人	23人
合計		14人	10人	17人	21人	23人	85人

【細部】住民避難訓練実施状況（避難行動要支援者避難）



【車いすでの避難】（余子地区）
（この他、アイマスクの避難訓練を実施）



【福祉車両での避難】
（ストレッチャーでの搬送訓練）



【福祉車両での避難】
（ストレッチャーでの搬送訓練）



【福祉車両での避難】
（福祉車両への積載訓練）

【細部】 住民避難訓練実施状況（避難退域時検査会場）



【ゲートモニターによる検査】



【ゲートモニターによる検査】



【ワイパー拭取り検査】



【放射線測定器による検査】

【細部】 住民避難訓練実施状況（避難先施設確認訓練）



【避難所となる体育館の確認】



【スーパーなど周辺の状況について鳥取市職員に尋ねる参加者】



【学校施設・設備の確認】



【原子力災害及び防護措置全般について研修】

【細部】障がい者支援施設避難（光洋の里・さざなみ）訓練



光洋の里
【県・市からの通報を報告】



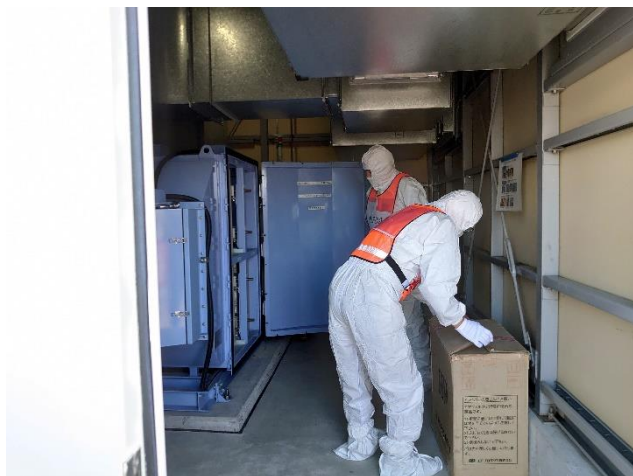
【放送でスタッフに指示】



さざなみ
【利用者を退避準備】



【光洋の里の入居者を退避】



【陽圧装置の起動陽圧エリアに退避】



訓練項目	目 標 等	成 果 ・ 課 題 等
災害対策本部運営訓練等	<ol style="list-style-type: none"> 地震災害から島根原子力発電所の事態進展に応じた、各関係機関等との連携及び初動対応要領を確認する。 各種伝達手段の情報伝達方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震災害対応から、AL、SE、GEへと状況の進展に応じた対応方針の確認、指示や情報伝達の確認ができた。 ○ 原子力防災ネットワークシステムなど各種情報伝達手段の手順確認及び緊急エリアメール、防災行政無線など住民への情報配信要領を確認できた。 × 一方、想定シナリオに合わせた災害対策本部の運用訓練でテレビ会議接続等の時間的制約もあり、参集したりエゾンとの連携確認まで実施できなかった。
バス避難訓練等	<ol style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者及び支援者の一時集結所までの避難手順の確認を行う。 バス避難の手順を確認し、広域住民避難計画の実効性を検証する。 避難経路の選定、避難退域時検査等の手順を確認・検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力災害時の避難行動要支援者の避難について、要支援者役となったことで、避難支援についての理解が深まった。 ○ 先導車の通行障害及び交通事故を起因とする通行止の発生により、障害物排除や、他の避難路の確保など、不測の事態に備えた避難の円滑な実施について新たな教訓が得られた。 × 故障車両等の速やかな排除、交通を確保するための対応手順、体制について課題を共有し、協議する必要がある。
自家用車避難訓練等	<ol style="list-style-type: none"> 避難に必要な情報の提供及び情報に基づく避難開始時期など、自家用車避難の手順を確認し、広域住民避難計画の実効性を検証する。 避難先の周辺環境も含めた、施設等を確認し、避難住民が体験することで広域避難計画の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運転者自らが通行止などの情報を入手し、適切な経路変更を行い、避難ができた。 ○ 避難退域時検査の重要性について理解が深まった。 ○ 避難先施設や周辺環境が確認できたことで、参加住民の大きな安心感につながった。 × 自家用車避難訓練参加者5名と少なかった。

住民避難訓練アンケート結果

(回答数 41 / 41 人)

年代別 : 80歳代:2人 70歳代:21人 60歳代:12人 50歳代:5人 40歳代:1人

【避難指示等の確認】 (複数回答)

- ★ エリアメール : 40人
- ★ 防災行政無線 : 33人
- ★ トリピーメール : 12人
- ・ 原子力防災アプリ : 13人
- ・ ホームページ : 3人
- ・ SNS : 2人

【屋内退避の重要性】

- ★ 十分理解している : 16人
- ★ 概ね理解している : 23人
- ・ 理解していない : 1人
- ・ 無回答 : 1人

【事故発生時の行動】

- ★ 深まった : 20人
- ★ 多少深まった : 16人
- ・ 参加前と変わらない : 4人
- ・ 無回答 : 1人

【広報内容の理解】

- ★ 理解できた : 39人
- ・ 理解できなかった : 1人
- ・ 無回答 : 1人

【段階的避難】

- ★ 知っている : 38人
- ・ 知らなかった : 2人
- ・ 無回答 : 1人

【避難手段等】

- ★ 自家用車で避難所 : 21人
- ・ バスで避難所 : 12人
- ・ 自家用車で親戚・知人宅 : 5人
- ・ その他・無回答 : 4人

【今後役立つ内容】

- ★ 十分役立つ : 23人
- ★ 一部役立つ : 12人
- ・ あまり役に立たない : 4人
- ・ 全く役に立たない : 1人
- ・ 無回答 : 1人

自由記載欄 ご意見、ご感想等①

○原子力防災講座

- ・原子力災害について、防災講座等の受講機会を増やしてほしい。
- ・講義の中で「しいたけ」の放射能が高いのには驚いた。（安全値以下）

○避難訓練全般

- ・あってはならないが、貴重な体験ができて良かった。
- ・おおむね理解できたので、参加してよかった。
- ・自身の服装を原子力訓練用に整えて参加したい。
- ・放射性物質放出後の避難にもかかわらず、緊急性が十分に伝わらなかった。
- ・旧誠道小学校の出発時には先導車にトラブルがあり1時間遅れ残念だった。
- ・私は足が悪く要支援者であり、階段がとても大変だったが、配慮がなかった。
- ・想定外のことが起こることも、想定する必要がある。
- ・訓練内容を、参加者に事前に説明する必要がある。
(訓練内容の事前説明は防災講座で実施したが、他の手段も加えて検討する必要がある。)
- ・もしもの事故の時には、こんなにスムーズにはいかないと思うので、常日頃から考えておかなければと思っている。
- ・家族で参加できればよかった。

自由記載欄 ご意見、ご感想等②

○段階的避難

・段階的避難の時間厳守を徹底する必要がある。避難の開始が早くても遅くても渋滞が発生すると考えられ、手順、仕組みをわかりやすく策定してほしい。

○避難場所

・旧誠道小学校を避難所として活用するなら、校門前の花壇は撤去し。車で校庭に入れるようにしてほしい。

○屋内避難

・事故発生時の屋内避難の重要性や留意点について、多くの人が理解しておくことが必要と考える。

○避難行動要支援者訓練

・福祉車両を使用した訓練は良かった。

○情報発信について

・タイムリーな情報を多くの人に伝える工夫が必要だと感じた。避難する側の不安をどれだけ減らすことができるかが、実際の成否を分ける重要なポイントだ。

・各一時集結所などで積極的な情報発信が必要だと感じた。音響装置等も活用し、繰り返し繰り返し状況を伝えることが実際には必要であると感じた。